

地域で活躍する

人々

地域の今昔にお詳しい方や、現在活躍中の方八人にお話をうかがいました。

皆様は大変熱心にたくさんのお話をお聞かせ下さいました。しかし、紙面の都合上、そのすべてを載せられなかったのが残念です。お話をいただいた皆様には申し訳ございませんが、編集委員の考えで短くまとめさせて頂きました。



藤本宗信師
ほうせんじ
法泉寺住職

一村流失、このあたりは四谷にかけて北浅川が氾濫し、大きな洪水がよくありました。洪水を防ぐための土手を築いた跡が、

子供キャンプ場や運動場にみられます。

明治三十九年の洪水では村（西寺方の大幡村）一村がそっくり流されてしまいました。もともと、この寺のあたりも河原だったと考えられます。それが証拠に地面を掘ると石がゴロゴロ出てきます。また、大柳や神戸に大きな石があるのは洪水が運んできたものでしょう。

陣馬街道は昔は今よりずっと南を通っていました。旧道は今もあります。八王子消防署の元八王子出張所の前を西南に入る道が旧道の入り口にあたります。

神戸とは、神社仏閣の畑を耕す民のことをいいます。この辺は田畑しかなく皆貧しい暮らしでしたが、それでも醤油絞りや石積、土木などの技術を身に付けていた人は仕事にめぐまれ、わりと豊かでした。

法泉寺境内の地下から古銭が二千枚近く出てきました。西暦六二一年の開元通宝から永樂通宝まで多種類にわたります。これらの貨幣は諏訪町、四谷町にかけて開かれていた八日市場で使われました。



豊島康明師
そうせきじ
相即寺住職

相即寺周辺の昔の様子―大昔、このあたりは河原で、大きな洪水がよくありました。昭和二十年頃は、寺社以外は家がまばらで見渡す限りほとんど田んぼでした。

万目供養仏―万目はバンモクとも読み、多くの人の見る所のことをいいます。転じて「すべてのこと」を意味します。

延命閣地藏堂―八王子城落城の時、戦死した相即寺の縁故者二八三人の冥福を祈るため戦死者の首級が地藏堂の地に埋葬されています。地藏尊は一五三体あります。

ランドセル地藏尊（元八王子百景「相即寺」参照）―ランドセルを背負わせた地藏尊は、当時のまま残っています。しかし、当時のランドセルは戦争のため革を使うことができなくて、芯にダンボ

ールのような厚紙を使い表面を加工しただけのものなので、今はほとんど芯の部分しか残っていません。

しかし、戦争のために亡くなった疎開児童神尾明治かみおあきじさんのことは童話作家の古世古和子氏が「ランドセルを背負った地蔵さん」という童話で世に紹介して以来、広く知られるようになりました。

地蔵堂の参詣—八王子城落城時の戦死者、そして疎開児童の死。両者には四百年という時の隔たりがありますが、この地蔵堂は戦争がなければ死なずにすんだ人たちの供養堂です。神尾明治さんの死から六十年余、日本は戦争のない平和な時代が続いています。これからも、ずっと平和でありますようお願い、今では地蔵尊は平和守護尊と呼ばれています。参詣の折には平和である幸せを地蔵尊と一緒にかみしめてみたいものです。

地蔵堂は毎年六月二十三日（八王子城落城の日）、七月八日（神尾明治さんのご命日）、八月八日（児童や学生が夏休みで参詣しやすい日）に一般に開帳しています。



安田マキ

諏訪町在住

百一歳。

まんじゅうまつり—昔、お諏訪さまのお祭りの時は各家で饅頭を作りました。私の家では、よその家よりも多く四百から六百個位つくりました。それぞれの家により、生地やあんこに微妙な違いがあり、近所で配りあいました。

諏訪神社のお祭には饅頭を売る店が一つの鳥居から二の鳥居まで隙間なく一杯に並んだものでした。露店も今と同じようにたくさん出て大変な賑わいでした。

お諏訪さまの森—諏訪神社の森は杉の木が繁っていて、西八王子や八王子市街からも森がよく見え目印になったほど。昔は大きな建物もなく、この辺が西八王子や八王子市街よりも高台に位置していたからでしょう。でも昭和四十一年の台風で杉の木が全部倒れてしまいました。

そのほかの「ユウ」昔、今の市民センターあ

たりに競馬場がありました。また村芝居も行われました。



松木貞雄

上壱分方在住

九十八歳

大柳という地名の由来—昔、上壱分方町に「大柳山真光院長覚寺」という寺があったのがその由来です。この寺は、明治初年に宝生寺に合併されました。

水不足—昔、このあたりは桑畑が多かったです。北浅川には水が少なく水に不便をしました。又地盤が固く畑仕事も大変でした。深井戸を掘ったりしましたが、長期的にはうまくいきませんでした。しかし、北浅川に堰を設けることで、田に水を引くことができるようになりました。

元八王子地域の代官—元八王子地域には七つの村（元八王子、横川、川、式分方、大楽寺、上壱分方、下壱分方）があり、各村に名主がいて、その名主の上に江川太郎左衛門という代官がおりました。

伊奈街道—高尾街道で四谷の交差点を北

へ九十メートルほどいくと左斜め前に入る道があります。その道は、ほぼまっすぐ延びて北浅川にぶつかります。北浅川を越えてさらに行くと五日市町の「伊奈」というところに通じます。この道を、昔から「伊奈街道」といっています。昔は北浅川に橋がありませんでしたが、水量が少なかったため川の流れの中にその辺にある石を放り込めば、飛び石の要領で川を渡ることができたのです。



宮崎芳夫

元八王子町在住

古い地名―古い戸籍簿を見ると、元八王子二丁目辺りは元八王子南八日市、元八王子二丁目辺りは八幡宿となっています。

昔の暮らし―船田地域や横川地域には水田がありました。この辺は水が不便で水

田に適していないため、桑畑、麦畑が多かったのです。米は陸稲おかぼを作りました。暮らしは必ずしも豊かではありませんでしたが、ここでは養蚕や織物が盛んでした。

石神地蔵

石神坂の日枝神社の向かい側に石神地蔵が昔からありました。以前は子供達が食べ物の代わりに小石を積んでお供えしたりしたのですが、今はそういうこともないようです。

高尾街道

昔は幅四〜五メートルの砂利道でした。東京オリンピックの時、自転車ロードレース用道路として拡張され舗装されました。その後さらに拡張され、今三回目の拡張をしています。

梶原杉

八幡神社にある梶原杉の下に宝物が埋蔵されているとの噂があり、専門家が掘ったことがあります。でも何も出てきませんでした。今は枯れてしまい伐採されました。切株だけが残されています。



志村又治

元八王子町在住

八王子城跡周辺整備のキッカケ―八王子城跡近くの福善寺という寺が無人で荒れていました。十三年程前、この寺の清掃をボランティアで始めた一人の人がキッカケ。今は十五〜十六人がボランティアで活動しています。現在、活動範囲を周辺二帯に広げ、清掃だけでなく樹木の手入れなどもしています。市外の方も参加しています。

道路の整備

南多摩霊園の南端から八王子城跡方向へ行く道に路線バスを通すため地元の人たちが無償で土地を提供して道路を整備しました。元八王子三丁目に東京造形大学があったときは、バスの便がよかったです。大学が宇津貫町に移転したあと、バス路線は廃止になりました。

八王子城

八王子城跡にある八王子神社は天正十八年（一五九〇）八王子城落城の

とき焼失しましたが、その時残った「八王子神社」と書かれた金属製の額や鎖帷子くさりかたびらが、八王子市郷土資料館にあります。今、八王子神社は城跡内に再建されています。また、落城の時、奥女中達が御主殿の滝に飛び込むなどして城山川の水が三日三晩血でにぎりましました。そのためこの辺りでは落城の年には餅を搗かず、年が明けてから搗いたといいます。八王子城跡にある今の石垣は、城内を発掘調査したときに掘り出された石を使って当時の様子を復元したものです。



吉沢 守
諏訪町在住

観音さま——「観世音菩薩」が正式名、「聖観音」ともいいます。作者は御鋳物

おたすがるがのみふじわらまさのり
師大田駿河守藤原正儀で、元禄六年（二六九

三）に造られました。大正二年（一九一三）類焼により観音堂が焼けたとき、上巻分方村に住む松木陸太郎氏が火災の中から搬出したため、焼失をまぬがれました。

観音像作者の藤原正儀は江戸神田鍋町の人で、品川区の品川寺ほんせんじの銅造地藏菩薩像、台東区浅草東禅寺の地藏菩薩像、新宿区大宗寺の銅造地藏菩薩像（いずれも都指定有形文化財。現存）などの作者として名を残しています。

白馬観音——昔から、馬の像が祀られていましたが、観音堂が焼けた時に焼失しました。復活させたいという地域の人たちの強い思いと協力を得て、平成六年に白馬像として復元奉納しました。

今では「観音堂維持会」の名称を「白馬観音保存会」と改名しています。

観音堂の年中行事

〔一月〕御嶽供養。

〔八月〕第二土曜、観音さまのお祭り。

盆踊りは遠方から来る人もあり賑わいます。

〔九月〕庚申講。

ここには、小型の庚申様の像があります。

昔は持ち回りで年番をきめて、その年の年番にあたった家が庚申様の像を預かりました。庚申講の日には年番の家に大勢集まり、庚申様の像の前で祭祀を行ったあと、飲食をしながら御籠りをしました。この行事は庚申待、宵庚申などといいます。昔は年番の家で夜明けまで御籠りをしたそうです。今は年番制ではなく庚申様の像を常時観音堂内に安置し、御籠りは観音堂内で行います。時間も夜十二時頃までとなっています。



松井 功
上巻分方町在住

冊子「大柳神戸の今昔」——地域に伝わる古い話や地名、行事などを知っている年配の私たちが、書き物にして残しておかない

と何もかも分からなくなってしまう。そこで、私が見聞きして憶えていることを、書き残しておこうと思ったのです。地域を歩いて自分で写真も撮って、思うままに二十項目ばかりにまとめてみたものです。

陣馬街道の旧道―「切り通し」の日枝神社のすぐ南下に、その名のとおり「切り通し」になっている旧道があります。この旧道は明治十八年に完成したものです。文献によりますと、それ以前は「切り通し」の地点で曲がらずにそのまま進んで北浅川を渡り、大幡（宝生寺のあたり一帯）から元木、上野原を経て、川原宿に至るルートでした。しかし、このルートは曲がりくねっていたり、橋のない北浅川を渡らなければならぬなど、大変不便でした。

そこで、明治十七年（一八八四）川を渡らずに神戸から川原宿に出られる新しい道づくりを、村の人たちの手で行い、翌年、今で言う旧道が完成したのです。さらに大正十二年（一九二三）には、交通量の増加に対応するため「切り通し」から先を陵北公園、西寺方グラウンド沿いに下げ、現在の陣馬街道になったのです。大正十三年（

九二四）には、八王子から川原宿までの乗合自動車（バス）が開通しています。